

第48回全国高等学校・中学校剣道(部活動)指導者研修会



日本剣道形の様子

第48回全国高等学校・中学校剣道(部活動)指導者研修会〔主催=日本武道館・全日本剣道連盟・全国高等学校体育連盟剣道専門部・日本中学校体育連盟剣道競技部、後援=スポーツ庁・全国都道府県教育長協議会・全国市町村教育委員会連合会・千葉県教育委員会〕は、10月12日(土)～14日(月・祝)の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで開催した。

今回は、特別講師・講師・助講師25名、参加者88名(高等学校45名・中学校43名)が集まり、高等学校及び中学校における部活動の理解を深め、剣道の専門的な知識と技術の充実を図り、もって指導者の資質向上に寄与する目的で講義や実技指導を行った。

◆1日目(10月12日)

開講式では、主催者挨拶として^{さわとひでのり}沢登英徳日本武道館振興課主事兼課長補佐が挨拶を述べた。

続いて、^{つちざきゆういちろう}土崎祐一郎全国高等学校体育連盟剣道専門部部長が、「本研修会の目的は、学校剣道における部活動指導者の資質向上ですが、もう一つの目的は、^{ゆのまさのり}湯野正憲先生が提唱された、本研修会を足掛かりに剣道八段者を輩出し、高校、中学校剣道の普及発展に力を注いでいただける先生方を育成していくことです」と挨拶した。

最後に講師を代表して



全国高等学校体育連盟
剣道専門部部長
土崎祐一郎



谷 勝彦 講師

^{たにかつひこ}谷勝彦講師が「歴代の高体連部長は『子弟同行』、『事理一致』という言葉を抑っていました。子弟同行とは、剣道の修行を通じて自分自身を深める中で、生徒に言ってやらせるだけでなく、共に歩むことです。事理一致とは、示範ができる、説明ができるということです。是非、この2つの意義を考えながら研修会に臨んでください」と参加者に呼びかけた。

開講式終了後、^{よしだゆたか}吉田豊特別講師(藤永製薬株式会社)が「スポーツと貧血」をテーマに教養講座を行った。



一般的な貧血とスポーツによる貧血の違いや剣道に多く見られる運動性溶血について説明。夏場は短時間の運動と休憩をこまめに取り入れ、休憩の際には防具を外して熱を放出することや鉄分を豊富に含んだ食材やタンパク質、ビタミンB群などをバランスよく摂取すること。また、食事だけでは十分な鉄分の摂取が難しいため、サプリメントなどで補うと良いと解説やアドバイスがあった。

その後、^{まつだいきと}松田勇人講師が礼法や足さばき、素振りなどの基本技を中心とした実技指導法を行った。



足さばきは剣道指導の第一歩であり、竹刀の

持ち方より前に指導することや子どもの背が低い時には元立ちは頭を少し下げて引き立てることなど、指導者としての心構えを説いた。

1日目の締めくくりとして、谷講師指揮のもと、掛り稽古や指導稽古、追い込み稽古を行った。谷講師から「稽古を見ていると、打つまでのプロセスの一つである溜めがない。溜めとは相手の気を殺す、機会を狙うことであり、そのためには合気になることである。気迫と気迫のぶつかり合いを意識してほしい」と講評があった。

◆2日目 (10月13日)

午前6時より、講師と八段を取得している参加者の元立ちのもと、早朝稽古を行った。稽古後、松田講師から「稽古の際、指導者は子どもたちを引き上げてあげることが大切であり、そのことにより、子どもたちは指導者から気をもらう稽古をすることができる」と講評があった。

休憩を挟み、松田講師が日本剣道形について、それぞれの形の解説をしながら実技指導を行った。松田講師は「昇段審査のための形をするのではなく、竹刀剣道の原点を教えることが大原則である」と呼びかけた。

その後、山中洋介やまなかようすけ講師が木刀による剣道基本技稽古法の指導を行った。

山中講師は、「教える方に説得力を持たせるためには、指導者自らが生徒の前でやって見せてほしい」と呼びかけた。

午後は審判法として、初めに谷講師が基本的な審判の考え方や進め方などについて講話を行った。その後、高校、中学をそれぞれ2班に分け、実際に試合を行いながら審判指導を実施した。各班の講師から「合議の場合、主審は副審に結論について判断を仰ぐのであり、相談するのでは

ない」、「指導と反則の違いをしっかりと意識すること」、「副審はもう1人の副審の位置を常に意識すること」、「3人ともに同じ色の旗が一斉に上がるのは良い打ちだが、他人につられることなく、自分の信念を持って上げること」などの解説や指導があった。

その後の実技研修では、切り返し、打ち込み、掛り稽古などを行い、山中講師から「掛かるという意識が少ない。真向勝負で全力で掛かることを意識してほしい」と講評があった。

夕食後、体罰防止研修として、土崎講師が資料に基づき、教職員の体罰やハラスメント、



飲酒などによる軽率な行動に関する過去の事例を紹介しながら、改めて指導者としての心構えを説いた。その後、情報交換会として「部活動指導で工夫して取り組んでいること」のテーマでグループに分かれて話し合い、発表を行った。発表では、県全体としての強化の取り組みや部員減少に伴う普及活動などの紹介があった。

◆3日目 (10月14日)

昨日同様、午前6時より早朝稽古として、中島博昭なかしまひろあき講師指揮のもと、指導稽古や相互稽古を行った。



休憩を挟み、山中講師が竹刀による剣道基本技稽古法の指導を行い、有効打突を意識することや打ち間を確認した。

最後に谷講師指揮のもと、切り返しや打ち込み、掛り稽古、相互稽古などを行った。藤原昌史ふじわらまさふみ講師から「素振りでは刃筋を意識できていても、面をつけるとできていない。相手の正面を打つのではなく、自分の正面を目がけて捨て身で打つことを心掛けてほしい」と講評があった。



閉講式では、沢登振興課主事兼課長補佐が代表者に修了証を授与。続いて講師講評を松田講師、主催者挨拶を山下克久やましたかつひさ日本中学校体育連盟剣道競技部部长が行い、研修会の全日程を終了した。

